

# 審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 平成26年度全国中学校体育大会 第44回全国中学校バスケットボール大会	期間 2014年 8月 22日(金)～ 8月 25日(月)
開催地 香川県	会場 高松市総合体育館 他
参加者 工藤 由佳	所属地区名 帯広地区
講師 玉木 彰治 氏(本部・富山県AA) 田邊 真由美 氏(本部・兵庫県AA)	
実技研修、座学研修等の記録 ○A級研修会 上級審判としてゲームを運営できるように、「判定力」を高めることと、判定基準の確認をテーマに、2パーソンで研修を行った。ゲームは、高校生のハーフゲームを担当した。 主審:加藤 加織 氏(滋賀県A) 副審:工藤 講評:近井 英俊 氏(香川県A) 田邊 真由美 氏(本部・兵庫県AA) ドライブに対するリードでの見方、ファウルの判定での責任の所在についてアドバイスをいただいた。 ○審判レクチャー 本部 玉木 彰治 氏 「審判の目線から見たコーチ論」～全ての人々のために コート上でどうあるべきか～ というテーマのもと、お話ししていただいた。コーチングにつながるヒントをたくさん得ることができ、審判・コーチの両視点からバスケットボールを考えるよい機会になった。「コートに立つまでの日常が自分を鍛え、コーチや審判に結びつく」という言葉が身にしみた。	
実践実技1 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2014年 8月 23日 (土)	対戦カード 女子予選リーグI 昭和学院(千葉) vs 常葉学園(静岡)
主審 工藤 由佳	副審 寺島 慶子 氏 (石川県 公認)
ゲーム前のカンファレンス内容 ・2人の視野の分担、ラインの分担、リードが右へ行く場面、3番エリアと6番エリアの見方と協力について、オールコートディフェンスへの対応について確認した。また、ベンチの振る舞いに対する対応についても確認した。 ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 阿部 敬太 氏 (岩手県 A) ・手の使い方の整理をもう少し明確にできると良かった。 ・自分がミスしたときの立て直しをすばやくするべきだった。	
ゲーム感想 カンファレンスで確認した通り、2人で協力して1ゲームを吹くことができた。しかし、ディフェンスのボールマンへの手の使い方や飛び込みリバウンドの整理がもっと必要だった。ゲームとして大きな問題はなく終えることができたが、主審としてゲーム運営をする中で、自分のミスでゲームをとめてしまうことがあった。そうならない備えと素早い対処が必要だった。あらゆる場面を想定して、対応していく力を更に高めていかなければならないと改めて感じた	
実践実技2 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2014年 8月 24日 (日)	対戦カード 女子決勝トーナメント1回戦 勝山(愛媛) vs 山口(埼玉)
主審 濱本 淳子 氏 (岡山県 A)	副審 工藤 由佳
ゲーム前のカンファレンス内容 ・エリアの分担について ・フロアーバランスやプレーに応じた協力について ・時計や表示物の管理について など	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 開 康寿 氏 (大阪県 A) 動きやジェスチャーが大きく強くとても良いので、ずっとなくさず続けていってほしい。その中で、判定基準の確立が必要である。特に、リーガルガーディングポジションの理解をもっと深めるべきである。	

### ゲーム感想

1ゲームを2人で協力して吹くことができた。その中で、リードのときに自分がファウルを取り上げなければならないケースを相手審判のみ取り上げたものが2つあった。場面に応じてリードの位置取りを工夫する必要があると感じた。

また、ベストポジションでプレーを捉えているのに判定が遅いことがあり、ルールブックに照らし合わせて即座に判定する力を高める必要があると感じた。

### 実践実技3

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

2014年 8月 25日 (月)	対戦カード	女子準決勝	山口(埼玉) vs 折尾(福岡)
主審 白川 一樹 氏 (本部・香川県 AA)	第1副審	長谷川 裕 (神奈川県 AA)	第2副審 工藤 由佳

### ゲーム前のカンファレンス内容

- ・エリアの分担について
- ・センターの役割について
- ・メカニックのこともあるが、判定をしっかりとっていくという確認

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 二宮 隆二 氏 (茨城県 A) 大江 裕之 氏 (岐阜県)

インサイドのマッチアップに対する判定が前半と後半で違っていた。前半も後半と同じような基準で判定できるとよかった。そこがゲームのポイントだったので、プレーの見方として、リードがもっとはやくローテーションをしてもよかったのではないかと。リードのローテーションのタイミングがマッチしていないときがあった。

センターからリバウンドプレーを見るとき、ブラインドになっているケースがあったので、少しでもずれてスペースをとらえる努力が必要である。

田邊 真由美 氏から

リードでドライブを受けに行き、受けてから戻るという動きがあるとよい。ただし、リバウンドまで残って見に行くとローテーションを起こす必要はない。

### ゲーム感想

3パーソンだったので、相手審判と協力しながら、自分のエリアを責任をもって見ることを心がけた。インサイドのマッチアップとそこに対するヘルプの見方として、自分がセンターのときにもっとダウンとペネトレイトをして判定すべきだった。後半は修正し、ダブルコールでファウルを判定できたのでよかった。今回は、2人の相手審判の判定基準に合わせる意識が強かったが、自分が判定基準をつくれるよう、積極的に示していくことが必要だと感じた。また、スペースをとらえる細かな動きがもっと必要であった。

メカニックに気をとられる部分もあったが、最終日のコートで落ち着いて判定し、大きなミスなくゲームを終えられたことは自信につながった。

### まとめ

過去にジュニアオールスターには3回参加させていただきましたが、全中には今回初めて参加させていただきました。中学生最後の大会にふさわしい高いゲームレベル、会場の熱気を肌で感じ、この大会にかける思いを選手・コーチ・観客のみなさんと共有して最終日まで一緒にコートに立たせていただいたことを嬉しく思っています。

試合後の講評以外にも、多くの審判員の方々から、ジェスチャーや走り方、笛の強さや鋭さなどを評価していただきました。普段から実践していることに自信をもって今後も取り組んでいきたいと思っております。しかしながら、上級審判としての判定基準、ゲームマネジメントという観点では、自分に足りない部分も多くあると思っております。ルールブック・マニュアルに立ち返り、選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、日頃の実践を積み重ね努力していきたいと思っております。

最後に、このような機会を与えてくださった道協会並びに地区協会の皆様に感謝し、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。